

記念館新聞



福崎町立
柳田國男・松岡家記念館
〒679-2204
神崎郡福崎町西田原
1038 の 12
電話：0790-22-1000

9月1日は防災の日

みちやす

井上通泰と関東大震災

9月1日は防災の日です。この日が防災の日となったのは、大正12年9月1日に関東大震災が起きたからです。

関東大震災に井上通泰も被災しています。通泰は、被災当時、『万葉集新考』を執筆中でした。この最終巻である巻二十下で次のように記しています。

震災の大火により、執筆中の『万葉集新考』のうち、巻十二下だけが初稿・再稿ともに焼失します。しかし、通泰の執筆意欲は失せませんでした。

9月17日の夕方一時避難先であった桜田本郷町の桜田クラブから伊皿子の牧野邸に移ります。そして、筆硯

を借り、執筆を開始します。

ところが、罫紙が一枚もありません。そこで、急いで刷ってもらうように依頼をします。そして、有合わせの紙に書いていくと、刷残りの罫紙があったといつて、24枚の罫紙が通泰のもとに届けられます。通泰は「僅二十四枚の罫紙ではあるが無事な時に珍書をもらつたよりうれしかった」と記しています。

そして、初稿ながらも万葉集の全註が出来上がったのは、11月3日のことでした。この間、牧野邸では、新館に通泰を住まわせ、自分たち家族は旧館に住んでいました。おかげで、通泰は新館階下の洋室で執筆を続けることができたのです。

このように、『万葉集新考』という著作を生み出すには、関東大震災という大きな災害に遭いながらも、通泰の研究を理解し、応援してくれる人々の協力があったことがわかります。

名作著書紹介

故郷七十年を讀む

柳田國男は、関東大震災をロンドンで知りました。國男は、大正10（1921）年に国際連盟委任統治委員に就任します。そして、ジュネーブでの委員会に出席するとともに、欧米諸国を旅行します。そのような中で、関東大震災の報を受け、『故郷七十年』の中で次のように記しています。

國男はすぐに日本へ帰ろうとしましたが、船が得られず、やっと押し迫った暮れに横浜に帰ってきました。



柳田國男・松岡家記念館

☆☆入館案内☆☆

☆開館時間

9時～16時30分
（入館は16時まで）

☆休館日

月曜、祝日の翌日
12月28日～1月4日

☆入館料

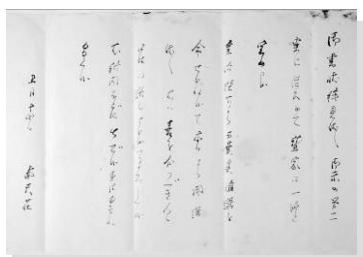
無 料

そして、「ひどく破壊せられていた状態をみて、こんなことはしておられないという気持ちになり、早速こちらから運動をおこし、本筋の学問のために起つという決心をした。そして、十三年の春に二度の公開講演を試みたのである」と述べています。

このように、通泰も國男も震災によって、学問への情熱が衰えなかったことが伺えます。

通泰の万葉集講座 ～皇后陛下への進講～

通泰の代表する研究テーマとして万葉集があげられます。大正4年5月に『万葉集新考』第一冊を発行し、昭和2年に最終巻である38冊を発行したもので、明治43年から万葉集に取り組んだ歌書講釈の記録です。



井上通泰書簡（昭和4年5月14日）
[兵庫県立歴史博物館蔵]

また、昭和4年には皇后陛下に万葉集の進講を行っていました。

通泰はこのときのことを門人への手紙に『皇后陛下より万葉集新講を命ぜられ候て本日より開講致候』と知らせ、この進講について、喜びを分つべき人々にはお話しくださいと記しながらも、新聞などに出ることは恐れ多いことであると結んでいます。

通泰の万葉集研究は、宮中にも聞き及び評されていたことがわかります。



館日記

8月4日と5日に第33回山桃忌がエルデホールで行なわれました。

4日には、当記念館顧問の石井正己先生による基調講演、ドイツ文学者・エッセイストの池内紀さんによる記念講演が行なわれました。そして、佐治民話会元会長の中島嘉吉さん、新庄民話の会の渡部豊子さん、福崎町立図書館応援隊の畑崎節子さん・鎌谷泉さんが、それぞれに昔話を語ってくれました。

5日には東北応援企画として、映画「遠野物語」が上映されました。

両日ともに多くの皆様にお越しいただきありがとうございました。本当にありがとうございます。

